

第12週の発生動向(2007/3/19~2007/3/25)

1. 咽頭結膜熱については、八戸、むつ保健所管内において、第50週から**警報**が継続しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、上十三保健所管内で新たに**警報**が、弘前保健所(第10週~)むつ保健所管内(第49週~)において、**警報**が継続しています。
3. 伝染性紅斑については、むつ保健所管内において、第3週から**警報**が継続しています。
4. 流行性耳下腺炎については、上十三保健所管内、むつ保健所管内で新たに**注意報**が出されました。
5. 感染性胃腸炎については、減少傾向にあります。引き続き注意が必要です。
6. インフルエンザについては、報告数3,233人(先週比889人増)と増加傾向が続いています。詳細については、[インフルエンザ情報](#)に掲載しています。

第12週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数					
	疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数		定点	数	定点	数	定点	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
(72) インフルエンザ	991	70.79	426	28.40	422	30.14	94	13.43	914	101.56	386	64.33	3,233	49.74	889	64	32.00	927	77.25						
(59) RSウイルス感染症			1	0.11					1	0.17			2	0.05	-4										
(60) 咽頭結膜熱	8	0.89			5	0.56			9	1.50	3	0.75	25	0.60	-13			8	1.00						
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	1.67	38	4.22	6	0.67			26	4.33	14	3.50	99	2.36	-19	2	2.00	13	1.63						
(62) 感染性胃腸炎	35	3.89	16	1.78	17	1.89	10	2.00	13	2.17	26	6.50	117	2.79	-43	4	4.00	31	3.88						
(63) 水痘	16	1.78	6	0.67	8	0.89			17	2.83	6	1.50	53	1.26	9			16	2.00						
(64) 手足口病															0										
(65) 伝染性紅斑					4	0.44	6	1.20	1	0.17	18	4.50	29	0.69	2										
(66) 突発性発しん	1	0.11	2	0.22	3	0.33	1	0.20	6	1.00	2	0.50	15	0.36	-8			1	0.13						
(67) 百日咳															0										
(68) 風しん															0										
(69) ヘルパンギーナ															0										
(70) 麻疹(成人を除く)															0										
(71) 流行性耳下腺炎	17	1.89	9	1.00	16	1.78			24	4.00	13	3.25	79	1.88	22	3	3.00	14	1.75						
(73) 急性出血性結膜炎															0										
(74) 流行性角結膜炎					3	1.50	1	1.00	2	1.00			6	0.55	4										
(82) マイコプラズマ肺炎					5	5.00					2	2.00	7	1.17	1										

は警報 は注意報 「空欄」: 患者発生数0

感染症の窓

流行性角結膜炎

(平成14年-18年)

図1 流行性角結膜炎 定点当たり年間患者数

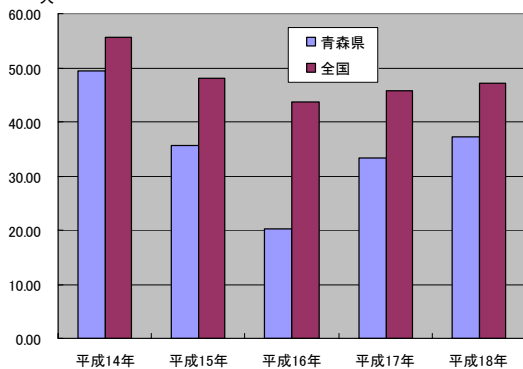
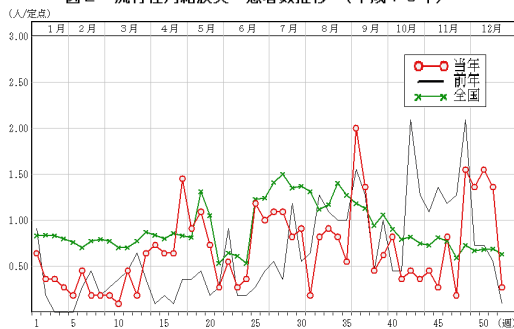


図2 流行性角結膜炎 患者数推移 (平成18年)



アデノウイルスの感染により、眼瞼の腫脹とともに眼脂、流涙、眼瞼結膜の充血と濾胞が見られ、発症の約1週間後には角膜点状上皮下混濁を起こします。

平成18年は、全国値よりも定点当たりの患者数が少なかったものの、増加傾向にありました(図1)。

全国的には、夏に増加しますが、18年の本県では、9月にピークを形成し、11月下旬から12月にかけて再び増加しました。また、17年では、10月と11月下旬にピークを形成しました(図2)。

なお、本県の過去5年の統計では、年齢による差はほとんどありませんでした(図3)。

予防方法としては、**こまめな手洗いとタオルや洗面器の共用を避ける**ことです。

図3 流行性角結膜炎 過去5年間の年代別報告数(県内)

